

第48回「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクール

石森延男賞 作品

石森延男賞

6年自由部門／読んだ本・世の中への扉 ピアノはともだち

奇跡のピアニスト 辻井伸行の秘密

三つの眼で見る

兵庫県神戸市立神戸祇園小学校 澤井琉人

「本当にありがとう。ピアノ続けてねえ。」
ぼくに四つ折りされた千円札を差し出した。三〇才くらいのお兄さんがいきなりだ。ぼくは目の球が落っこちそうになるほど驚いてあわてて首を横にふった。だが、「どうしても受け取ってほしいから。」とぼくの手を取り、強くお札を握らせてきた。知らない人からお金をもらってしまった憎悪感から、親に打ち明けた。その時初めて「おひねり」というものだと思ったのだ。

ぼくは四才からピアノを習い、その日はピアノの発表会前日に控え、神戸駅の地下にあるストリートピアノで、リハーサルのように演奏していた。単なる素人の子供の演奏で千円札のおひねり。心にひっかかるものを感じたまま発表会は無事終わり、数日後、図書感でピアニスト辻井伸行さんの本を見付けた。辻井さんは全盲のピアニスト。右目が弱視で見えずに生まれてきた四才のぼくに、ピアノの先生は、辻井さんのビデオを見せてくれたことがある。目が見えないのに流れるような演奏に、ただただ吸い込まれるように見ていた記憶がある。目次に目をやりながら、ふと辻井さんもおひねりをもらったことがあるのだろうかと、もっと知りたくなった。

辻井さんは今のぼくの年令で、もうすでにコンサートに成功させていた。障害への同情や障害を乗り越えた賞賛が集まりやすいからだ、とぼくはかなりの軽い考えて嫉妬を始めていた。ぼくは長い間、電子ピアノで練習してようやく昨年本物のピアノを買ってもらったのに、辻井さんは最初から。ぼくは姉の生活に遠慮しながらピアノの練習なのに、辻井さんは父親が医者で裕

福な家庭の一人っ子。幼い頃から海外にたくさん行けて、現地の人と思う存分ピアノでコミュニケーション。辻井さんのピアノは色の感覚にあふれ、心が純粹で真つ白だから、美しく澄んだ音色であるとか、大絶賛の言葉ばかりが並んでいる。ページをめくるたびに、とんだんぼく自身がひねくれた嫌な人間になっていくのが複雑だった。

辻井さんは点字の楽譜の出来上がりが遅いからと耳コピで練習できていた。ぼくも耳コピが得意だし、それが楽しかった。しかしぼくのピアノの先生は、四才のぼくに「耳コピ禁止令」を発令してきた。片目のぼくには楽譜の五線が何重にも見えおたまじゃくしの頭がどこにあるのか見えにくい。楽譜を大きく拡大コピーし色をつけるなど、普通の人の何倍も時間がかかり、何倍も集中力を必要とし、何倍にも目と脳が疲れるやり方で楽譜を見て首をとる練習が始まった。眼痛も頭痛も出るし、辛くて涙で楽譜も鍵盤もにじみ、余計に見えなくなる。鍵盤が涙でぬれ指がすべってうまく弾けない。それは思ったよりとても早くにぶち当たったぼくにとっての大きな壁だった。ぼくも片目だけではなくて両目が見えなかったら楽しい耳コピを続けられていたのかなと一瞬罰当たりなことすら頭をかすめたがすぐ打ち消した。壁の向こうには奇跡が待っていたからだ。なんとそのことが右目の機能訓練にもなり視力の回復傾向につながったのだ。辻井さんは本のタイトルにあるように「ピアノはともだち」だと言う。ぼくにとっては、ずばり「ピアノはドクター」だ！

そして辻井さんにもそんな壁はなかったのかと、まだ嫉妬心のほうが強いままだ読み進めていった。客観的に見れば確かに大

きな壁にぶつかっていた。優勝有力候補だったショパンコンクールでの落選。しかし辻井さんは、周りが大粒の涙している様子でも自分は決して涙せず、むしろ感謝の言葉を述べていた。そして自分に足りないものはまさにその壁だったと言い、壁の向こうの新たな目標をすぐに挑戦姿勢で見据えた。暗闇の盲目の辻井さんは、どうやってここまで前だけを向き、強さと優しさをもてたのだろうか。ぼくは次第にピアノだけではなく全てにおいて辻井さんは超人だと思わざるを得なくなっていた。

その時「心の眼」という文字が飛び込んできた。その言葉でいつも両親にさとされていたぼくは、ハッと我に返った。辻井さんのご両親も、全盲であるがゆえ養わなければいけないという思いで育ててきたのだ。ぼくは氷のような嫉妬心が一気に溶けた。

「眼で見える部分より、見えていない部分を心の眼で見ることが大切。心の眼をもつ強くて優しい人間になってほしい。」
眼を閉じ、初めて親の言葉の深さを感じた。

本を読み終えたぼくは、すぐにぼくのピアノにおひねりをくれたお兄さんを想い千円札を眺めた。ぼくのピアノを弾く姿を眼で見、そして心の眼で何をみってくれたのだろうか。ぼくもこれから、二つの眼と心の眼で楽譜を丁寧に読み、強さと優しさを音階に乗せたばく色の音色を重ねていきたい。

そして、ピアノをずっと続けていきたい